

令和2年度全国高等学校総合体育大会の中止に伴うメッセージ

本県では、新型コロナウイルス感染拡大防止並びに子どもたちの安全・安心を確保するため、高等学校では3月から臨時休業となりました。部活動も制限あるいは自粛が続き、4月には緊急事態宣言を受け、関東大会及び関東大会県予選も中止となりました。

こうした中で、高校総体については、何とか開催し、特に3年生には最後の大会として、思う存分にその成果を発揮できる機会を確保したいと考えてまいりました。しかしながら、令和2年4月26日に全国高等学校体育連盟臨時理事会において令和2年度全国高等学校総合体育大会の全競技及び総合開会式の中止と令和2年度全国高等学校定時制通信制大会の全競技の中止が決定されました。

この決定は、大会開催を信じてやまなかった私たちにとってもとても残念なものとなりました。しかし現在の状況を冷静に考えた場合、生命が最優先されることを考えれば、やむを得ない判断であると思っています。

生徒の皆さん及び保護者の皆さまには、大変残念なお知らせとなってしまう、私ども専門部として何とお伝えすればよいのか、思い当たる適切な言葉が見つかりません。特に3年生の皆さんは、この大会を目標にこれまで仲間とともに切磋琢磨し、努力を続けてきました。その成果を存分に発揮できる機会を失ったことへの悲しみや、悔しさでいっぱいだと思います。自身の向かう方向を失いかけていたり、脱力感も受けたりしている人も少なくないでしょう。

私どもも、この状況下で何とか生徒の思いをかなえてあげたいと考え、大会日程調整や会場確保に努めてきましたが、それもまたかなわぬこととなってしまいました。

しかし、皆さんがこれまで努力してきて培った「力」は、決して失われることはないものであり、これから長い人生において向かい合うであろう幾多の試練で、必ずや生きてくるものです。私は「努力は決して裏切らない。」と信じています。

バドミントン競技は、瞬発力、筋力、持久力、そして精神力を兼ね備えていないと勝利を掴むことができない競技だと思っています。厳しい練習を通して粘り強く我慢をしてチャンスを待つ鍛錬をしてきた皆さんです。この苦難を乗り越え、仲間や先輩、顧問、コーチ、そして保護者の皆さまをはじめ支えてくださった方々に対する感謝の気持ちを忘れず、新たな目標に向かって邁進されることを期待します。そして、悔しい気持ちを糧に末永くバドミントンに携わり、新たなチャンスを掴みとってください。

令和2年5月1日

バドミントン専門部各加盟高等学校

生徒の皆さん並びに保護者の皆様

神奈川県高体連バドミントン専門部長

都 丸 利 幸